

トピック ― 野菜の輸出動向 ―

「和食：日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産への登録が12月上旬に決定され、今後、和食文化の内外への発信とともに、生鮮野菜を含む農林水産物・食品の輸出拡大が期待されている。

生鮮野菜の輸出量は、いわゆるリーマンショック後の世界的な景気後退もあり、平成19年をピークに減少傾向であったが、平成25年の1～10月期には7千6百トンとなり、既に前年の年間輸出量(6千5百トン)を上回る水準となった。

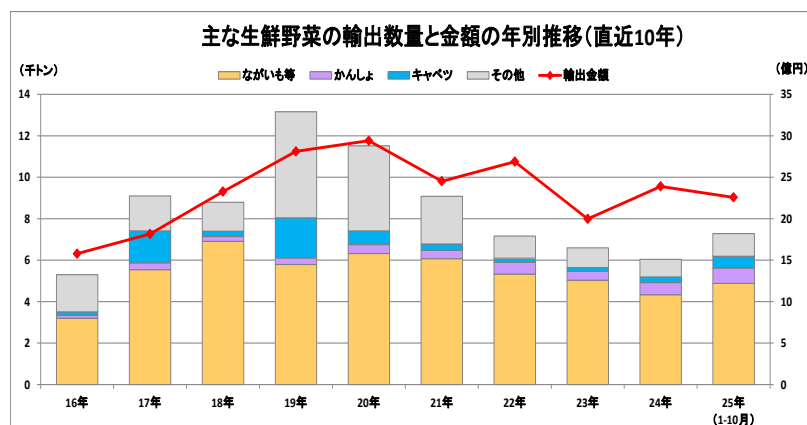
品目別にみると、台湾や米国等において薬膳料理等の食材としての販路の開拓に成功しているながいもが過半以上を占めており、最近の円安効果もあり平成25年その輸出を伸ばしている。

ながいもに続く品目としては、かんしょ、キャベツ、かぼちゃ、にんじん、メロン等があり、いずれも平成24年に比べて増加している。

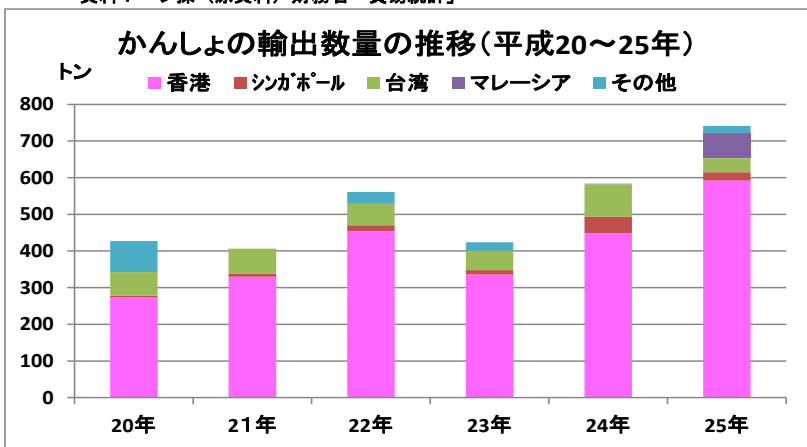
特に、かんしょとメロンは、その伸びが大きく、平成25年(1～10月期)は、平成20年(年間計)に比べ、それぞれ、1.7倍の741トン、1.5倍の107トンへと増加している。

かんしょは、香港等では、その甘さに加えて小型のサイズがおやつ等の食材として人気であり、メロンは、アジア富裕層向けに販路を徐々に広げつつある。

成長著しい東南アジア等向けを中心に、ジャパンブランドとしての野菜の輸出拡大を図るためには、他の競合輸出国の産品との差別化を含めた綿密なマーケティング、品揃えの充実と周年供給体制の確保、鮮度の保持や輸送コストの削減等に産地も含めた関係者が一体的に取り組むことが重要となっている。



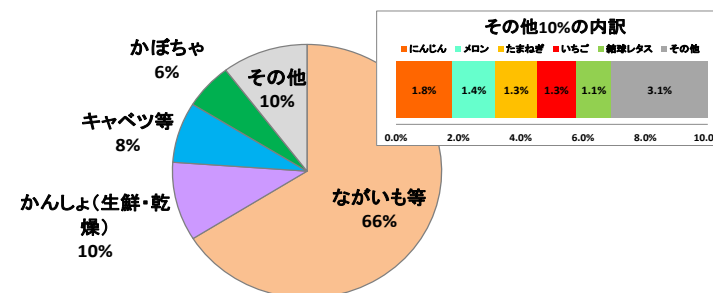
資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」



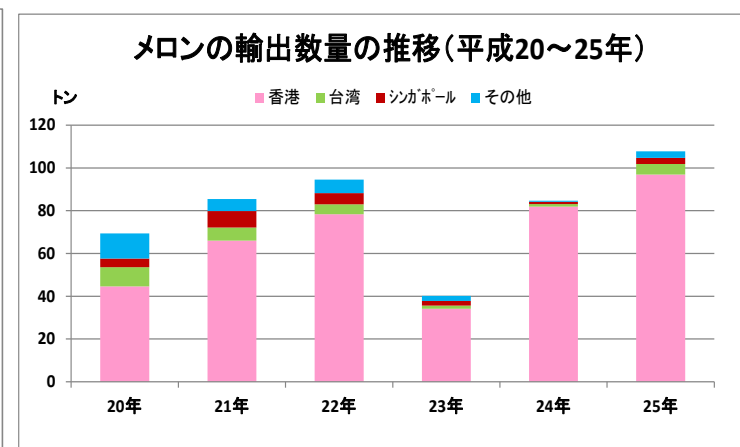
資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

注：平成25年は、1～10月の実績

生鮮野菜の輸出数量の品目別割合 (平成25年1～10月)



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

注：平成25年は、1～10月の実績

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。□

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。